

令和4年度英語教育に関する学校評価（児童・保護者・学校関係者）の結果

米原市立息長小学校

昨年度、本校は英語特例校として高学年で年間80時間程度、中学年で年間45時間程度、低学年で20時間程度（全学年モジュールの時間を含む）英語教育を実施した。その学校評価をまとめました。

【児童評価】

設問：英語の時間は楽しいですか。楽しく学べますか。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
低学年	83%	84%	85%
中・高学年	80%	84%	83%

※端数は四捨五入しています。数値は「あてはまる」「だいたいあてはまる」と回答した割合です。

設問：英語の学習は、大切だと思いますか。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
中学年	92%	95%	95%
高学年	94%	90%	94%

※端数は四捨五入しています。数値は「あてはまる」「だいたいあてはまる」と回答した割合です。

【保護者評価】

設問：お子さんは、英語の学習を楽しみにしている。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
中学年	76%	84%	85%
高学年	63%	74%	69%

※端数は四捨五入しています。数値は「あてはまる」「だいたいあてはまる」と回答した割合です。

【学校関係者評価】

設問：学校は、英語教育に特に力を入れ、児童・生徒のコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の推進に積極的に取り組んでいる。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学校関係者	3.5点	3.5点	3.7点

※「よくできている」を4点、「できている」を3点。「あまりできていない」を2点、「できていない」を1点として計算した点数になります。

まとめ

- ・児童は概ね英語を楽しみ、伸び伸びとコミュニケーション力を高めていくことができていると言えます。モジュール学習等、毎日英語に触れることができる機会を保障し、ALTやパイオニア教員と進んで交流できる課題設定がなされることで、親しみやすい活動となっていることが要因として挙げられます。
- ・高学年になるにしたがって苦手意識が芽生えてしまうことが保護者評価からうかがえます。より進んで活動し、英語に意欲的に接する活動を仕組んでいきたいと考えます。